

知識を「学ぶ」から 現場で「使える」へ 若手生産技術者のための 基礎力向上セミナー

～若手生産技術者が一歩目を踏み出すための集中プログラム～

開催日時 **2026年10月22日(木)** **名古屋会場** 会場 **日本能率協会 中部事務所 研修室**
10:00～17:00 (名古屋市中村区名駅 JRセントラルタワーズ 36F)

対象 • 若手生産技術者、生産・製造にかかわる若手技術者（経験2～5年程度）、生産技術者として基本を学びたい方

講師 **田代 勝良 氏**
工場改善サービス株式会社
代表取締役社長

参加料(税込) 法人会員：60,500円/1名
会員外：71,500円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
※お申し込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申し込みください。

本セミナーのねらい

生産技術者として必要な管理手法(QCD)を知っているだけでは現場で活かすことができません。

本プログラムでは、基礎知識を整理したうえで、自社の現場でどう使うかを考え、実際に試すことを通じて、若手技術者が「指示待ち」から「自ら考えて動く」状態になることをねらいとします。

学べるポイント

- 生産技術者として押さえておくべきQCDの基礎知識
- 品質管理・生産技術の知識を、どの場面で使うのかという判断軸
- 現場で「おかしい」と感じた気づきを整理する考え方
- 完璧でなくても試せる、小さな改善の進め方
- 失敗を恐れず、一歩目を踏み出すための思考プロセス
- 実践結果を振り返り、次の行動につなげる方法

参加者の声

- 作業の動画をみながら、「生技的な視点で考える」方法を教えていただき、とてもわかりやすかった。
- 生産技術者には、現場全体を俯瞰して改善につなげる視点が重要であるとわかった。
- 実際の事例を交えた説明が多く、日々の業務にも活かせる内容が多かった。
- 実践を含めた研修は探しても中々なく、自社への落とし込みイメージを深められてよかった。

■ プログラム

10:00～17:00 (昼休み 12:00～13:00)

1 生産技術者に求められる役割と期待

- 会社の目的と、期待されている生産技術者の役割
- 会社における自職場の役割とは？
- 上司や他部門との向き合い方

2 生産技術者が知っておくべきQCDの基礎

- QCDを、現場の判断材料として捉える
- 自分の業務とQCDの関係を整理

3 「知っている」と「使える」の違い

- AIの進歩で仕事はなくなるの？
- 使える知識にするために思考を整理

4 ワーク 失敗事例の共有

- 改善が進む現場の共通点整理

5 ムダの見つけ方

- 会社経営とムダ(なぜムダが放置されるのか?)
- ムダを改善の入口として捉える

6 ワーク 自社現場を題材にした課題抽出

- 自社現場で感じているやりにくさの整理

7 ワーク ムダ取りワークの実践

- 改善事例による改善プロセスの体感

8 ワーク 自社改善の宣言

9 まとめ

- 本日の振り返り

※プログラム内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

